

ICT農業ハウス「革新的」

伊達の施設 道農政事務所長が視察



稀府農業研修センターを視察する農水省道農政事務所の福島所長（中央）

【伊達】農水省道農政事務所の福島一所長が23日、市内を訪れ、情報通信技術（ICT）を活用した連棟型農業用ハウスを備える市の「稀府農業研修センター」を視察した。福島所長は、新規就農者の受け入れを視野に入れ、環境制御技術によるミニトマトなどの試験栽培を続けている同センターの取り組みについて「全国的に見ても革新的」と述べ、高く評価した。

視察に訪れたのは、福島所長ら同事務所の職員4人。市経済環境部の幹部や、センターを運営している自動車部品メーカー国内最大手「デンソー」からの出向職員と、農業生産法人アド・ワン・ファーム（札幌）

の役員らが、施設の概要や、野菜の栽培状況について説明した。

福島所長は、今夏の猛暑でもハウス内の温度管理により、収量減を抑えることができたとの報告に注目。さらに「新規就農者の育成では、センターで蓄積されていくさまざまなデータが今後がますます重要になる」「年間通して作物が安定供給できるようなれば、北海道農業はさらに一段高い段階に進む」との見方を示した。

福島所長らは引き続き、市役所を訪れ、堀井敬太市長と懇談。市が主体的に取り組んでいる新規就農対策などへの期待感を伝えた。

（梶山征広）